

写真でわかる地下鉄利用時の留意事項

【ゼブラ標識（車掌の停車位置）】



地下鉄構内のゼブラ標識は車掌の車両停車位置の目印であり、同所付近で車両を待つと緊急時に助けを求めやすくなります。また、警察官も車掌とコミュニケーションをとるため、同標識を警戒場所の目印としています。

【ヘルプポイント（駅構内）】

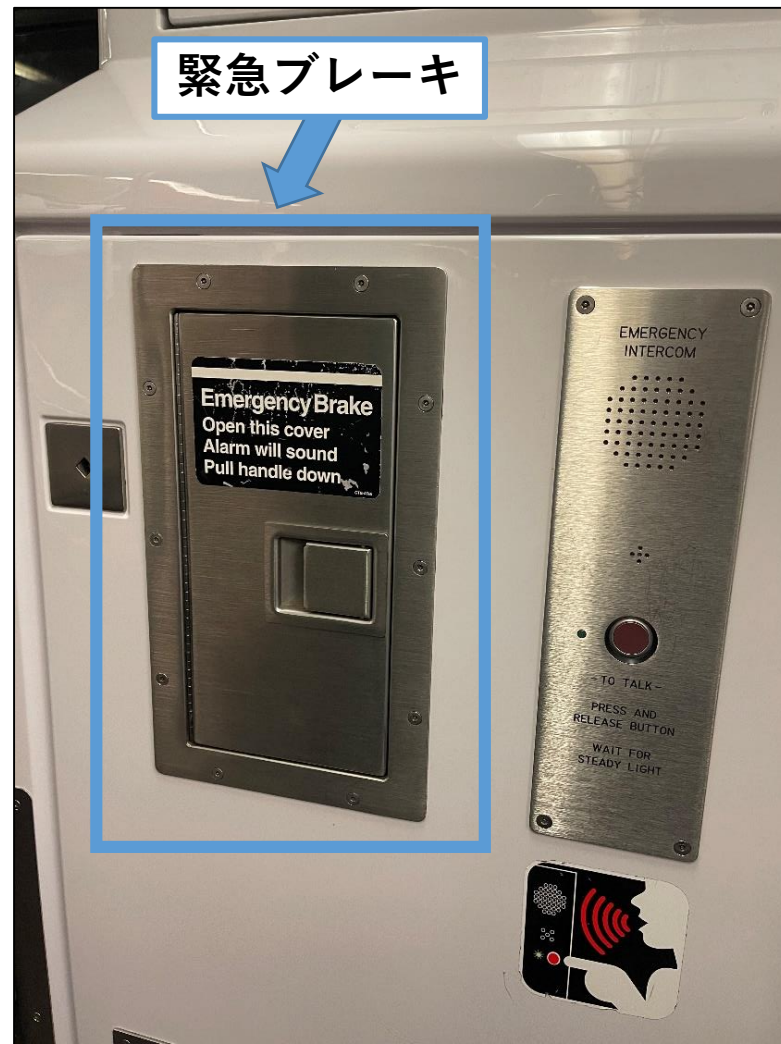


【インターコム（車両内）】



駅構内及び車両内には、緊急用のヘルプポイント（インターコム）が設置されています（一部の車両を除く）。地下鉄利用時には万が一の場合に備え、これら通報装置の位置を確認しておくようにしてください。

【地下鉄車両内の緊急ブレーキ】



車両を緊急停車しなければならない事態（例えば、電車のドアに人が挟まり引きずられている、線路上に人がいる時など）が発生した場合のみ使用してください。
電車が駅間を移動中に犯罪、火災又は急病などの緊急事態が発生した場合は緊急ブレーキを使用せず、インターコムを使って車掌に連絡又は次の駅に到着するのを待つて伝えてください。

【地下鉄ブース】



緊急時は、改札前の地下鉄ブース付近にいる職員に助けを求めてください。職員不在の場合は、通報時にブースに表示された駅名及びブース番号で現在地を知らせてください。

※2023年3月30日、ニューヨーク市交通局は、地下鉄ブースの段階的廃止及び係員による駅構内・ホームでのサービス提供を発表しました。

【テキストメッセージによる911通報】



犯人が近くにいる場合など、電話での通報ができない場合にも有効な通報手段です。

「911」宛てに緊急通報の理由と現在地を連絡ください。オペレーターが対応します。

【警察施設（交通部）の所在地】



地下鉄マップ内の青色マークは警察施設を示しています。
地下鉄駅及び車両内での事案に関し、警察に被害の届け出をする必要がある場合は、こちらに相談してください。



【その他の留意事項】

- ・ 車両内の乗車位置

出入口ドア付近は、犯人が逃げやすい場所であり、ひったくり等の被害に遭いやすいため、できるだけ避けるようにしてください。

- ・ 線路内への荷物落下

線路内にイヤフォンや携帯電話等の荷物が落下した場合は、必ず駅員に通報し、絶対に自ら線路内に降りて拾うことのないようにしてください。これまで線路内に自ら降りたことによる事故や電車の遅延が発生しています。

- ・ 照明ライトの活用

地下鉄職員は、プラットフォームなどで照明ライトを以下のように使用することで、異常の有無に関するコミュニケーションをとっています。緊急事態が発生した場合は、携帯電話のライトを利用し、地下鉄職員等に異常の有無を知らせることができます。

左右に照明ライトを振ると「NO」ー 全てのオペレーションの「中断」

上下に照明ライトを振ると「YES」ー 全てのオペレーションの「再開」